

## インタビュー 家族に迎えて

センターから譲渡されたワンコ  
その後、どうしていますか？

えいじいと一緒に  
叶える獣医師になる夢

京都市北区 T様



僕を選んでくれて  
ありがとう

センターで1年3ヶ月を過ごしたえいじいがTさんの家族になったのは2019年7月。動物番組で保護犬の存在を知った娘さんが、「私も犬達を助けたい」と思われたことがセンターから犬を迎え入れるきっかけでした。

以前から聴覚に障害がある小型犬を飼育されている御一家ですが、センターでえいじいを勧められたときは、性格やしつけもできるかわからない大型の高齢犬を愛

情を持ってきちんと育てられるか、当初は随分と悩まれ、家族会議を重ねたそうです。特に大型犬が苦手なお父様。娘さんが根気よく説得してくださり、まずは2週間のトライアルからスタートされました。

「えいじいがやってきた当初は大変でした」と率直な感想を教えてくださいましたお母様。食事の量や大きなウンチなど、小型犬との違いにも戸惑われたそうです。散歩中に「えいじいが消えた！」と思ったら、溝に

スッポリはまって動けなくなっていたことも。段差でつまづいたり、車道に飛び出しそうになったり、いつも気が抜けませんが、えいじいは散歩が大好き！今では大型犬が苦手だったお父様が散歩に連れてくださるそうです。

幸せな御縁をつないでくださった娘さんの将来の夢は「獣医師」。きつとえいじいは夢に向かって進む娘さんのいい相棒になってくれると思いました。(A.O)

## 犬猫の飼い主さん募集

～新しい飼い主さんになっていただけませんか？～



◀譲渡犬・譲渡猫の  
詳しい情報は  
こちらから

毎月  
第2土曜日  
13時～15時

犬の譲渡会  
(保護犬見学会)

を開催しています

センターでは、引き取った犬猫のうち、適性があると判断した犬猫を希望者に譲渡する制度があります。犬や猫の譲渡を希望される方は、是非センターまでお問合せください。

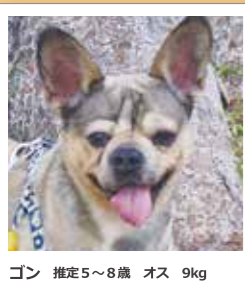
ただし、犬や猫の譲渡には、以下の条件がありますので、あらかじめ御了承ください。

譲渡できる方の主な条件 (詳細は、センターへ御確認ください。)

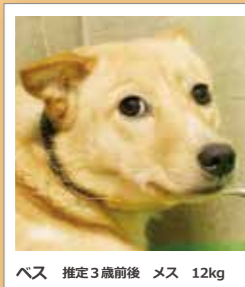
- ・京都府域にお住まいの成人で、譲渡希望者自身が飼い主となること。
- ・ペットの飼養が制限されていない住宅にお住まいであること。
- ・飼い主として責任を持ち、家族の同意を得て、家庭で犬や猫を適正に終生飼養できること。 など

ぼくたちと  
暮らしませんか？

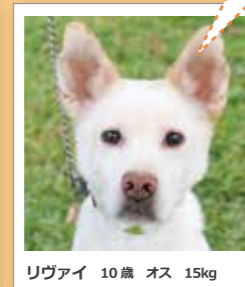
※既に譲渡先が決定している場合があります。



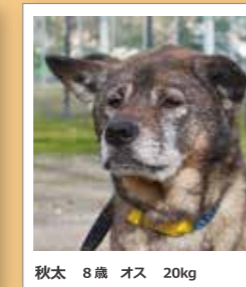
ゴン 推定5～8歳 オス 9kg



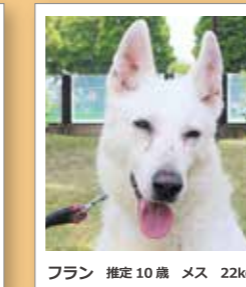
ベス 推定3歳前後 メス 12kg



リヴァイ 10歳 オス 15kg



秋太 8歳 オス 20kg



フラン 推定10歳 メス 22kg

## 京都動物愛護センターへのアクセス

- 近鉄十条駅から徒歩5分
  - 京都市営地下鉄烏丸線 十条駅から徒歩15分
  - 京都市営バス 十条大宮停留所から徒歩5分
- ※無料駐車場はございません。

〒601-8103 京都市南区上鳥羽仏現寺町11番地

TEL : 075-671-0336

FAX : 075-671-0338

開所時間 : 午前9時～午後5時

休所日 : 木曜日 (祝日の場合は翌平日)  
年末年始

Facebook → <https://www.facebook.com/anilove.kyoto/>

Twitter → <https://twitter.com/kyotoanilove>

Instagram → <https://www.instagram.com/kyotoanilove/>



## 京都動物愛護センターマスコットキャラクター LINEスタンプ第2弾発売中



本紙は「京都市動物愛護事業推進基金 (人と動物が共生できるまちづくり基金)」からも出資しています。動物愛護推進基金に寄附していただいた方のうち、希望者はホームページに公開しており、ふるさと納税の適用も可能です。なお、寄附の方法についても、こちらのホームページで御覧いただけます。

→ <http://kyoto-ani-love.com/>

この機関紙は行政とボランティアが協働で作成しています。

## 京都動物愛護センター機関紙



令和2年度 夏号

# 愛ランド通信

LINE  
スタンプ  
第2弾  
発売中

—人と動物の共生を目指して—

## 特集 まちねこ

野良猫との共生を考える

飼い方注意点

熱中症対策

～猛暑を乗り切るために～

ペットのためのマナー&ルール

迷子の犬猫について

～大切ないのちを守るために～

ボランティア犬猫数珠つなぎ

～一緒に歩む大切な家族～

甘えんぼうでかわいい存在

インタビュー 家族に迎えて

えいじいと一緒に叶える獣医師になる夢



モデル：ポリ 年齢：推定5歳

## 特集 まちねこ

野良猫との共生を考える



▲観光地の猫

京都の町を歩いていると、様々な場所で猫の姿を見かけます。こういった猫たちは、猫好きの人たちにとっては心を和ませてくれる存在であり、観光客のアイドルとも言えます。「京都、猫」で検索すると、世界遺産と同じぐらい、たくさんの猫の画像がアップされています。

観光地京都と猫のフォトジェニックな組み合わせは、SNSでも大人気で、国内外を問わずたくさんのフォロワーを生み出し、昨今の猫ブームを押し上げているように思えます。私たち住人にとっても、いつもの街角にかわいい猫を見ることはほほえましい光景であり、子猫の姿を見ると、春が来たなと思ったりします。

一方で、無責任な餌やりによる野良猫の繁殖、鳴き声や糞尿被害等で頭を悩ませる住民も多く、猫が嫌いになる人も少なくありま

せん。野良猫は地域の人気者でもあり同時に厄介者でもあります。猫に癒やされる人もいれば、迷惑を被る人がいるのも事実です。

そして、無秩序に増えすぎた猫のほとんどが、怪我や病気で命を落としてしまうという悲しい現実があります。どうすれば、不幸な猫を減らせるのか、猫が好きな人にも嫌いな人にも、よい解決策はないのか。そして猫にも人にも住みよい街にするためにはどうすればいいのか。

本号では、このような課題を解決するために、京都市が平成22年から実施している「京都市まちねこ活動支援事業 (以下、「まちねこ活動」という。)」について、特集します。



▲カメラを向けるとポーズ

「まちねこ活動」ってなあに？

そもそも、まちねこ活動って何かなあ？

京都市の地域住民の合意と協力の下で作られた、地域のルールに基づいて野良猫を適切に飼養する活動なんだ。この活動では、京都市が無料で避妊去勢手術を行ってくれるんだよ。手術の後は「まちねこ」として、その地域でお世話をしてもらんだ。活動を続けることで、野良猫を減らしたい!という思いを将来的にかなえることができるんだ。

なるほど!避妊去勢手術を行うだけでなく、ルールが必要なんだね。大切なことだね。でも、ルールってどんなことを決めるの?それに、住民の合意って難しくないの?

例えば猫用のトイレや餌の場所、その掃除など、猫の管理方法をルールで決めるんだ。かわいそうな猫を助けたいという気持ちでつい餌をやってしまう人がいるけど、餌をやるだけじゃなく、避妊去勢手術、餌の片付け、トイレのお世話まで、責任を持たなきゃね。それに、地域にはさまざまな考えの人がいるので、最初に皆さんの理解を得ておくことも大切だね。

「まちねこ活動」をするにはどうしたらいいの？

まちねこ活動を始めるには何が必要なのかなあ？

まず、地域住民 2 人以上で活動グループを作る。管理する猫が 10 頭以上なら 3 人以上必要で、他には町内会や、地域の人たちに理解してもらい、その印として承諾書が必要だよ。

え?町内会や地域の人たちの承諾書が必要なの?活動をしたい人が集まるだけではダメなの?

活動に、地域の人たちとの協力なしにはできないことがいっぱいあるからだよ。餌をやる場所やトイレを置く場所、特にトイレは、地域の人たちの協力なしでは置けないよね。承諾書は活動を始める時に医療衛生センターへ届け出をするときに必要なんだ。

町内会や地域の人たちの許可をもらって承諾書も提出したら、すぐに活動できるの?

医療衛生センターの審査が終わるまで、もう少し待ってね。審査が通れば、無償で避妊去勢手術を受けることができるよ。手術の後、猫は元の場所に戻されるんだ。

そうして戻された猫たちを、みんなでお世話する。ここからがまちねこ活動のスタートだね!

熱中症対策! ~猛暑を乗り切るために~

熱中症になるリスクは人間以上!

人間のように汗をかくことができない犬や猫は熱が体にこもりやすく、体温調節が苦手です。夏場は人間だけでなく、ペットにとっても過酷な状況!熱中症対策が必要です。

熱中症の症状は?

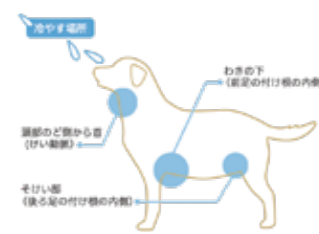
呼吸が荒くなる、ふらついて歩けなくなる、下痢や嘔吐といった症状を起し、けいれん発作や意識を失うことも。さらに症状が進むと、血圧が低下して舌や口などの粘膜がうっ血して紫色になったり、臓器が損傷を受け、命に危険が及ぶこともあります。

熱中症にならないための予防と対策!

室内では風通しを良くし、冷感マットを置くなどペットが自由に居場所を選べるようにしてあげましょう。留守中もエアコンをつけて、直射日光が当たらないようにするなど、ペットを高温の環境に置かないことが最大の予防です。真夏の散歩は早朝か、地面の熱が下がった夕方以降がおすすめです。日中のアスファルトはとても熱く、60~70℃になることもあり、肉球をやけどする可能性があります。外出時刻に注意して散歩をしましょう。

「もしかして熱中症?」そんな時は!

できるだけ早く動物病院を受診しましょう。病院に行くまでの応急処置として、常温の水をかける、濡らしたタオルなどで体を包む、涼しい場所で風を送るなどしてください。首やそけい部、わきの下に保冷剤を当てて冷やすのも有効です。急に全身に冷水や氷水を浴びせて冷やし過ぎると、血管が収縮して逆効果になることもあるので注意しましょう。(y.m)



活動インタビュー

まちねこ活動はどのような活動をされているのでしょうか。今回取材に協力してくださったのは、市内にお住まいの M さん。御自身も、町内会長をされていた立場から、まちねこ活動について語っていただきました。

私がまちねこ活動をはじめようと思ったきっかけは、町内の人たちから寄せられた相談でした。「同じ町内に住むお年寄りが、猫に餌をやって増えすぎてるのでなんとかしてほしい」。そういった相談が私のもとに多く寄せられていました。元々猫が好きで、迷子猫の保護をしていましたが、まちねこ活動は初めてでした。まちねこ活動を始めた当初、相談のあった地域だけで野良猫が 30 匹はいましたが、ほとんどの猫の避妊去勢手術を終えました。現在は、近所の人と3人で猫たちの世話をしています。猫の保護の経験のある人も加わったのでうまく流れができ、協力してくれる人も増えてきました。路上にふん尿が散乱することもなくなりました。それでも、人手と資金が不足しています。子猫のミルク代や設置するトイレ、それらのほとんどが、住民の寄附で賄われています。

地域の皆さんの理解と協力があってこそ、続けられるものです。まちねこ活動をもっと多くの人に知ってもらい、猫が好きな人だけでなく、嫌いな人にも関心を持ってほしいですね。



▲敷地外に出る際の猫用の出入り口



▲子猫の保護や子育てに使う手作りケージ



▲トイレや餌場は通りから見えないように設置



野良猫からまちねこへ



まちねこ活動は、猫が好きな人がやっているイメージがありますが、猫が嫌いな人にとっても「野良猫を減らすため」という目的を共有できる活動です。野良猫がかわいそうだからと、無秩序に餌をやってると、猫の数は際限なく増えてしまいます。だからといって、野良猫を駆除しようというのではなく、避妊去勢手術でこれ以上増えないようにし、地域に今いる野良猫に一代限りの生を全うさせ、また、ふん尿の臭いや鳴き声の問題も起こりにくくできます。

野良猫の問題を地域全体の問題として、多くの人に関心を持っていただきたためにも、まちねこ活動の存在が、より広く認知されることが必要です。人と動物が共生できる社会の実現のための第一歩となることを願います。(桂)

京都市のまちねこ活動支援事業に関するお問合せは京都市医療衛生センターまで! 詳しい資料はこちらからダウンロードできます。



<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000189400.html>

ペットのためのマナー&ルール

迷子犬猫について ~大切ないのちを守るために~

雷や花火などの音に驚いて飛び出す、散歩時にリードを不用意に放す、ドアや窓の隙間から脱走するといったことが迷子の原因になります。「うちの子は大丈夫」といった油断は禁物です。適切な脱走防止対策を行い、万一の場合に備えて、迷子札やマイクロチップなどを装着しておくことで安心です。もし脱走したときは、速やかに保健所や動物愛護センター、警察へ連絡し、家の周りを検索しましょう。最近では SNS を使った呼び掛けも活用されています。



迷子にしないよう、日頃から気を付けてね

ボランティア犬猫数珠つなぎ

~一緒に歩む大切な家族~

インタビューしました!

甘えんぼうでかわいい存在

ボランティア5期生 小村純子&アンジーちゃん(♀)



▲小村さんのことが大好きなアンジーちゃん

小村さんは、東日本大震災をきっかけに、犬を飼うことを決心されました。独り暮らしでも譲渡してもらえる保護団体を探され、小さなアンジーちゃんとお会いしました。とても怖がりな散歩もできない子だったそうですが、「私が散歩できるようにする」と心に決めて譲り受けられました。



▲今も怖がりですが、甘えんぼうさんです

最初は抱っこで公園に行き、通る人を眺めることから始めて、散歩の練習を半年以上も続けられたそうです。当時のことを、「心が折れそうになる時もありましたが、今では懐かしい思い出です」と語っていただきました。人慣れしていなかったのに、今では何よりも小村さんのことが大好きで、構ってもらおうといつもくっついてくるそうです。「甘えんぼうでかわいい存在です」と、アンジーちゃんへの愛情が伝わってきます。(koeda)